

令和4年度 普及指導活動外部評価委員会（書面開催）
「評価委員からの意見」及び「次年度の活動について」

島根県農林水産部農業経営課

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
安来市での有機米生産の拠点づくり (安来農業部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■産地・法人の置かれた生産条件とニーズの変化を的確に捉えた計画・目標であると高く評価できる。有機米に対する市場のニーズも大きく、関係機関との連携も周到に行われていると考える。 ■県基本計画の有機農業の拡大に沿った課題設定になっている。 ■地域農業の担い手である集落営農法人を普及対象とし、法人の有機米生産拡大のニーズに対応した課題を設定、市、JAなど関係機関と連携した活動計画である。 ■有機 JAS 認証取得を軸にした有機米生産の拠点づくりという目標設定は、県基本計画の方向性とも合致している。 ■有機米多収技術の確立に向けて、明確な数値目標を設定している。 ■基本計画にのった内容で、期待の持てる実証結果内容であったと感じる。 ■島根の農業が最も進むべき道を取り上げられている。 ■消費者の「安心して食べられる米」への期待に応える取り組みだと思う。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■生産性、栽培暦、実証試験、有機米専用 RC の整備、現地へのフィードバックが適切に行われていると高く評価できる。 ■有機 JAS 認証取得、取得前提の乾燥調製施設整備、有機米多収技術の確立が計画的に取り組みれ、効果的・効率的な活動になっている。また、普及活動の成果を確実なものにするため、関係機関との連携など組織的な取り組みがなされた。 ■生産者と関係機関が定期的に集まって意見交換等を行うことにより、有機 JAS 認証取得に向けた意識の共有が行われている。 ■有機米生産に必要な JAS 認証にも踏込んだ内容は良かったと思う。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■省力化、生産費目標、有機米専用 RC の本格稼働など、産地の置かれた生産条件とニーズの変化を的確に捉えた上での高い成果が得られていると高く評価できる。得られた成果や技術改良の現地へのフィードバックも適切に行われている点も特筆される。 ■有機米多収技術の確立についての取組みは、単収、労働時間、生産費など目標数値を達成している。 ■計画どおりに関係機関との連携で有機米専用の乾燥調製施設が完成した。 ■法人は生産施設の整備、多収技術の確立を背景に栽培面積拡大の目標を明確にした。 ■安来市に初の有機米生産のモデル経営体が誕生、今後の波及が期待できる。 ■有機米多収栽培技術が確立し、対象法人においては有機 JAS 認証取得という目標を達成した。 ■対象法人における効果として、有機 JAS 認証の担当者を置き、研修会を行う等、有機農業に対しより積極的に取り組んでいることが伺える。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■資料では、農業普及員の資質向上に関する情報が必ずしも十分に示されているとはいえないが、生産者や関係機関との密なコミュニケーションにより、各種のフィードバックを通じた資質向上の機会が創出されていることが容易に推察される。 ■目標数値を達成した状況にあって、生産技術に関する今後の課題抽出が整理され、普及員の資質向上が感じられる。 ■他の生産者への普及拡大に向けた支援を展開するための資質が備わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○有機多収技術の課題を抽出し、一層の技術向上と省力化の実現を図り、安定多収生産を実現する。 ○生産・経営面への効果を検証し有機米生産経営モデルを確立し、地域への波及を図る。 ○安来地域における有機米ビジョンを作成し、関係機関一体となって有機米専用 RC の活用を検討し、F 法人を中心とした産地づくりを推進する。

	<p>【改善が必要な点】 —</p> <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な計画が乏しいように映ります。また、目標が甘いのではないか？ ■ 労働時間と除草時間の目標数値は適正だった。 	<p>【改善が必要な点】 —</p> <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ そもそも拠点とは、複数の経営体で構成されるべきものと考えるが、一経営体への支援ばかりが目立つ報告で、拠点づくりなのか疑問を抱く。 ■ 農業部は農技センターと連携されているが、その他の例えば生産者組織やJAや市は、調査・指導に動かれていないか？おそらく連携・分担され取り組まれたと思うが、この報告からは見えてこない。 	<p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 販売出荷単価がどのような価格帯であれば、良好であるか知りたいところ。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 原油・資材高などの厳しい経営環境の中、生産者や関係機関とのさらなる連携のもと、一層の技術向上と省力化の実現を通じた有機米生産拡大をおおいに期待する。 ■ 地域への波及効果が今後の課題であり、情報発信や研修の方法に工夫が必要と思われる。 ■ 「どじょう米」に代わる生産技術を確立したことから、今後は改めて有機米のブランド化に向けた活動が必要。 ■ 収量の目標設定値は現実的であったが、おそらく収量を取るうえでまた、品質を確保するうえで何かしら直面または、今後想定される課題があったと思われる。 ■ 地域への波及を目指すにあたって、課題のあぶりだしと対策を確立して行って頂きたい。 ■ 要因分析がキチンと行われているならば、波及する貴重なデータになるものと思う。 ■ 時間短縮やコスト削減など、目標よりも大幅に達成されていてすごいと思う。 ■ 有機米生産計画を普及対象の意識の変化ととらえた。 	<p>【改善が必要な点】 —</p> <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ F 法人との現地実証などを通じて、農業者との密な連携によるさらなる資質向上の機会につながることをおおいに期待する。 ■ 県の基本計画の目標を達成するために今回の普及活動の成果を生かし、地域での有機米の取組みが拡大することを期待したい。 ■ 普及活動の具体的に努力された動きが記載されていないので、判らない。 ■ 生産性が低いかもしれないが、「どじょう米」気になる。 	
--	---	---	---	--	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
新規就農者の確保育成によるアスパラガス産地の活性化 (出雲農業部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■パッキングセンターの機能強化や、農林大学校などと連携したオンライン産地ツアー、11棟ものリースハウス事業、青年部の設置、販路開拓など多岐に亘る事業をもとにした高い目標が掲げられており、高く評価できる。 ■県基本計画の水田園芸の推進、新規自営就農者の確保に沿った課題設定になっている。 ■産地課題の分析が的確で、将来を見据えた普及活動課題が設定されている。 ■関係機関との密接な連携の下、多様な活動が取り組まれている。 ■「ひとつづくり」を軸とする課題設定であり、県基本計画の方向性とも合致している。 ■若者・担い手の新規確保は、どの作目にも共通する重要課題で、その先達として、アスパラガス部会を選定されたのは正解だと思う。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■就農パッケージによる総合的な支援体制を構築し、移住支援から経営モデル策定に至るきめ細かなサポート体制を整備し、多岐にわたる支援・指導活動を実現している点で、高く評価できる。 ■産地の拡大、活性化に向けた支援の方向性が的確、効果的で高く評価できる。 ■行政、JAに加えて農業振興公社、農林大学校まで連携が取れている。 ■ソフトとハードを組み合わせ、効果的な支援が行われている。 ■就農パッケージが大変丁寧に作り込まれていると感じた。新規就農の「入口」の段階で、経営モデルを含めた十分な情報提供がされているため、関心を持つ層が就農後の生活を具体的にイメージできる内容となっている。 ■今に合ったオンラインの活用や、まとまった資金が無くてもビニールハウスを借りたりと、新規でやりやすそうだなと思う。 ■パッキングセンターも生産者さんの助けになっていて良いと思う。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高い普及成果が達成されており、新たな担い手の確保と生産拡大にも繋がっている点で、高く評価できる。定住・就農支援やパッキングセンターの機能強化、青年部の設置、販路開拓など、多岐に亘る普及指導活動が適切に行われている点も特筆される。 ■六つの普及活動が組み合わせられ高い成果を出している。 ■新規就農者支援として青年部を組織できたことは、普及対象の大きな変化で評価できる。 ■新規就農者の確保、産地の規模拡大等、申し分ない成果につながっている。 ■青年部の設置等により、新規就農者同士の交流の仕組みも設計されており、ここから新たな動きが始まることも期待できる。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■環境モニタリングデータを活用した指導にもチャレンジするなど、農業者との密なコミュニケーションに基づいた総合的な活動が実施されており、農業普及員の資質向上にも直結していると高く評価できる。 ■産地の活性化に向けて、新たな担い手を確保し、個別の生産規模拡大をリースハウス制度で実現、省力化、販路拡大にも取り組んだ多様な普及活動は担当者の高い資質と評価できる。 ■就農希望者と最初に接触する「入口」の部分から、就農後のフォロー、販路拡大まで、幅広く網羅する活動を展開している点が評価できる。 	<p>○担い手、生産、販売について、より明確な数値目標の設定を行い、産地ビジョンを明確にして、産地の構造改革をさらに進めていく。</p> <p>○新規就農者が産地を担い先導する農業者になれるようステップアップを促す普及活動を展開し、更なる産地拡大・産地基盤の強化を目指す。</p>

	<p>【改善が必要な点】 ■普及対象の意向が反映させたビジョンであることが記載されていない。</p> <p>【自由意見】 ■成果目標の方向性は明確だが、どこまで目指すのかといった目標値が見えない。 ■どれくらい確保するのか等々、目標の数が少ないと感じる。 また、どこまでがJAの取り組みで、どこまでが農業部で取り組まれたことなのか、判らない。多くに携わられているとは思いますが、内容を見る限りでは部会？JAで主体的に取り組まれたことのように見える。 ■データを活用した農業をテレビで見たことがありましたが、「スマート農業」という言葉を今回知った。</p>	<p>【改善が必要な点】 —</p> <p>【自由意見】 ■定住対策とも連動したさらなる高度化が大いに期待できる。</p>	<p>【改善が必要な点】 —</p> <p>【自由意見】 ■今後一層の若手農業者の参画による、さらなる産地発展をおおいに期待する。 ■新規就農者を迎い入れた側の農業者への影響や変化を知りたかった。 ■「普及活動のねらい」で提示された「産地の構造改革」という目標設定は一読ではわかりにくかったが、成果を見て、その意味や目指すところが理解できた。 ■目標が判らないので何とも言えないが、意図する方向へ進んでいるので、産地のムードを高められたことを大いに評価する。 ■地元のアスパラガス生産についてだったので関心を持って読んだ。</p>	<p>【改善が必要な点】 —</p> <p>【自由意見】 ■中核的経営体をはじめ、様々な主体とのネットワークの拡充などを通じて、さらなる資質向上の機会創出を期待する。 ■引き続き支援を継続するとともに、本活動で得た知見を活かして、他の地域でもこのような普及活動を展開し、新規就農者の確保育成を進めてほしい。 ■できるだけ緻密に具体的な目標を掲げられ、一層の高みを目指して頂きたい。</p>	
課題名	評 価 項 目				次年度の普及活動

	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	の改善について
新規就農者の確保～生産組合との連携を通じて～ (大田農業部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 担い手不足が深刻化する大田地域の新規自営就農者の確保・育成に向けて、アスパラガス生産組合との密接な協力関係と、市・JA など関係機関との綿密な連携のもと、具体的な目標と堅実な活動計画が設定されていると高く評価できる。 ■ 県基本計画の水田園芸の推進、新規自営就農者の確保に沿った課題設定になっている。 ■ 産地ビジョンを持つ組織を普及対象とし、高い波及効果が期待できる。 ■ 関係機関との連携の重要性を認識できている。 ■ 「ひとづくり」を軸とする課題設定であり、県基本計画の方向性とも合致している。 <p>【改善が必要な点】</p> <p>—</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 生産組合のみならず、市・JA と、さまざまなアプローチによる支援が組織的にとられており、高く評価できる。 ■ 自営就農者の育成について「担い手育成協定制度」を活用、生産者組織、関係機関が一体的に取り組む体制を確立したことは高く評価できる。 ■ 新規就農者の受け入れに向け、既存の農業経営体に協力を呼びかけ、地域を巻き込んだ受入体制を構築している。 ■ 関係機関ごとに役割分担を明確化できていると感じた。また、ベテランと新規就農者の関係構築も良いと感じたし、そこで生まれる課題についても把握していると感じた。 ■ 農大とも連携ができていて良いと思った。 <p>【改善が必要な点】</p> <p>—</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 研修生への懇切な受け入れ・指導体制の整備をはじめ、きめ細かな活動を展開しており、アスパラガス産地発展の気運の高まりにもつながっている点で、高く評価できる。 ■ 資材高騰が進んだ中、経営モデルの再試算を行い、現状を分析した上で就農希望者の意向を確認し、新規就農者育成を進める姿勢は大変評価できる。 ■ 新規就農を受け入れる生産組合と協議し、よりよい研修受け入れへ改善している。 ■ 物価高騰等、厳しい社会情勢の中においても、新規就農者を着実に確保している。 <p>【改善が必要な点】</p> <p>—</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 生産組合はじめ関係機関とのコミュニケーションと連携が密であり、経営モデルの見直しなど、フィードバックも適切に行われていると高く評価できる。 ■ 就農の前提条件となる経営モデルが大きく変化する中、就農希望者とともに活動を展開する普及員に資質の高さを感じる。 ■ 就農希望者や既存の農業経営体等、多様な関係者、関係機関の間の調整を行い、地域全体で連携して新規就農者の確保育成を行う仕組みづくりを試行している。 <p>【改善が必要な点】</p> <p>—</p>	<p>○ 新規就農者の確保・育成について、より明確な数値目標の設定を行い、生産組合と関係機関が一体となって推進する。</p>

	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 課題「新規就農者の確保」の数的目標として、1億円の産地規模を目指すために必要な新規農業者、担い手数の分析があると分かりやすい。 ■ 具体的な数値等の目標が見えない。数値目標を掲げ、それに向けた取り組みに努めることが必須と考える。 	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 連携体制のさらなる高度化と、他作目への取り組みの拡充を期待する。 ■ 協定制度において、連携、サポートする関係機関の役割について詳細な解説があると良かった。 ■ 生産者組織を主体とする取り組みは、担い手育成の王道と考える。但し、県農業部はどの部分をサポートするのか、役割分担の明確化が重要だと思う。 	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今後とも、息の長い伴走による成果の安定化を期待する。 ■ 他の協定へ今回の経験をしっかり生かしてほしい。 ■ 新規就農者の定着のためには就農者側及び受入側の双方に対するフォローが不可欠。現時点での課題に対し、中長期的な視点で引き続き対応してほしい。 ■ 基本計画を踏まえ、具体的かつ新規就農の糸口としての取組に期待する。更に、内容の濃いものにして頂きたいと思う。 ■ 関係者が一体となった就農者の確保・育成策が、配慮に努められることで、逆に沼にはまっておられる印象を受けた。寄り添い活動は、適宜要点を伝えて、就農者の判断に委ねることも大事だと思う。 	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ミニツアーやローテーションによる農家研修など、生産組合の農業者との密なコミュニケーションを通じて、さらなる資質向上の機会創出を期待する。 ■ 経営モデルが厳しくなった中で、就農希望者の就農実現に創意工夫をしながら進める普及活動が、目標達成できることを期待する。 ■ 様々な配慮なり、継続的な取り組みは必要だが、今それ以上に必要なのは、就農者確保・育成の支援をスピードアップし、より多くを輩出するための、具体目標に基づく取り組みだと思うので、その点ご尽力を願う。 	
--	--	--	---	---	--

